

平成23年度飼料用米シンポジウム資料

～飼料用米の利活用拡大で日本の農畜産業の明日を創ろう～

日 時 平成24年3月14日(水) 11:00～16:30

場 所 新宿区立牛込笹塚区民ホール
東京都新宿区牛込笹塚15

主 催 全国飼料増産協議会
社団法人日本草地畜産種子協会
協 力 超多収穫米普及連絡会
後 援 農林水産省

平成 23 年度飼料用米シンポジウム
～飼料用米の利活用拡大で日本の農畜産業の明日を創ろう～

資料目次

飼料用米利活用シンポジウム開催内容及び議事次第 1

飼料用米利活用シンポジウム開催要領 2

【講演】

「飼料米の生産利用をめぐる情勢と原発事故への対応について」 3

農林水産省 生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 小宮 英稔氏

「放射性物資汚染後に食品安全のため取り組んだこと」 15

日本生活協同組合連合会 執行役員品質保証本部長 内堀 伸健氏

【事例発表】

事例 1 飼料用米生産事例

「多収穫栽培と品種混入問題を解決し耕畜連携を進める取組み」 39

岩手県 八幡平農業改良普及センター 農産環境チーム 門間 剛氏

事例 2 飼料用米利用事例

「豚のエサからソーセージまで ～自給へのこだわり～」 53

菖蒲谷牧場（岐阜） 代表 山川 忠一郎氏

事例 3 飼料用米利用畜産物の普及事例

「飼料用米利用畜産物の普及拡大への取組み」 67

生活協同組合コープさっぽろ 専務理事 山口 敏文氏

【参考資料】

生産者と飼料米生産支援を実施している生協・事業連合の連携について 85
超多収穫米普及連絡会調べ

飼料用米利活用シンポジウム開催内容及び議事次第

I シンポジウム プログラム

11:00 開場

展示と試食

展示 11:00～途中休憩まで

試食 12:00～12:45 (白いスポンジケーキ、牛乳)

13:00 あいさつ

13:05 基調講演 1

「飼料米の生産利用をめぐる情勢と原発事故への対応について」

農林水産省 生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 小宮 英稔 氏

基調講演 2

「放射性物資汚染後に食品安全のため取り組んだこと」

日本生活協同組合連合会 執行役員品質保証本部長 内堀 伸健 氏

14:35 休憩

14:45 事例発表

座長 東京農業大学 准教授

信岡 誠治 氏

事例 1 飼料用米生産事例

「多収穫栽培と品種混入問題を解決し耕畜連携を進める取組み」

岩手県 八幡平農業改良普及センター 農産環境チーム

門間 剛 氏

事例 2 飼料用米利用事例

「豚のエサからソーセージまで ～自給へのこだわり～」

菖蒲谷牧場(岐阜県) 代表

山川忠一郎 氏

事例 3 飼料用米利用畜産物の普及事例

「飼料用米利用畜産物の普及拡大への取組み」

生活協同組合コープさっぽろ 専務理事

山口 敏文 氏

16:15 総合討論

16:30 閉会

II 展示と試飲・試食

全国各地の飼料用米の取組み事例・研究成果のパネル展示

飼料用米を給与して生産された畜産物の試飲試食

飼料用米利活用シンポジウム開催要領

1 開催趣旨

飼料用米は、輸入飼料に代替できる新たな国産飼料であり、併せて、水田を有効活用することにより循環型の畜産を推進してゆくものと期待されています。

一方、過般の東京電力原子力発電所の事故により、放射性物質の汚染に対する関心が高まっており、水田等が汚染したことから飼料用米の利活用を進める上で、関係者への正しい情報提供も重要となっております。

このため、例年とおりに各地域での飼料用米の生産・利用・消費に先進的に取り組んでおられる方々の経験や知見による関係者の交流とともに、本年度は、飼料用米の利活用を進める上で、放射性物質汚染に対す飼料用米の安全性確保についても関係者に広く情報を共有していただくための飼料用米利活用のシンポジウムを開催いたします。

2 シンポジウム

(1) 日時

平成24年3月14日(水) 11:00~16:30

(2) 場所

新宿区立牛込笹塚区民ホール

東京都新宿区牛込笹塚町15

(地下鉄 大江戸線牛込神楽坂駅より徒歩0分、
東西線神楽坂駅より徒歩10分)

(3) 開催内容

「飼料用米利活用シンポジウム開催内容及び議事次第」のとおり

(4) 参集範囲

生産者、畜産農家、消費者、生産者団体、消費者団体、畜産関係団体、
都道府県、市町村、試験研究機関、地方農政局、マスコミ関係者 等
(定員 400名)

(5) 主催等

主催 全国飼料増産協議会

社団法人日本草地畜産種子協会

協力 超多収穫米普及連絡会

後援 農林水産省